

日時：平成 27 年 2 月 23 日（月）18 時 30 分 ～20 時

場所：尾崎多目的研修集会施設

対象町会：尾崎

参加人数：36 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○合併特例債について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>今後、文化センター、体育館、平賀東小学校の改築、総合運動施設の整備等の箱物が多い。合併特例債を使うとしているが、結局は借金なのでもう少し詳しく説明いただきたい。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・合併特例債は、市町村合併促進のためにできた借入れの制度である。通常の起債に比べ、充当率と交付税の算入率が高い。充当率が 95%、交付税参入率が 70%である。たとえば、1 億円の事業を行う場合、95%の 9,500 万円が基準となる。その内、交付税で 7 割が来るので、残りが自己負担となる。自己負担できる資金がなければ、合併特例債があっても使うことはできない。</li><li>・平川市は文化センター等の改築をしても、財政状況が健全だと財務事務所からお墨付きをもらった。基金が 80 億円以上ある。今後 5 年間で約 92 億円の事業を行うが、5 年後の基金残高は 60 億円以上ある予定。合併特例債がなくなった後、国からの交付金は下がる。箱物を作ることで財政が悪化する可能性は否定できないが、今のうちに古くなった建物を建て替える方が将来的に長く使えると決断した。</li></ul> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>期限や額等もっと詳しく説明してほしい。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・合併特例債は、合併特例法に基づき合併した市町村のみ使える地方債である。三分の一のお金をだせば、残り三分の二は国からくるということ。わかりやすく言うと、100 円のうち 33 円を出せば、国で残りの 67 円を出してくれるという有利な借金である。</li><li>・当初、合併から 10 年間使える予定だったが、東日本大震災の被災地は 20 年間、被災地でない自治体は 5 年間延長に変更となったので、平川市の場合は平成 32 年まで延長された。</li><li>・使える額は 149 億 4 千万円で、その中で 31 億円使っているので、110 億円以上残っている。借金なので使わなくてもいいが、国で三分の二を出す有利なものなので使うことで計画している。平川市は県内でも合併特例債を使わずにきた方だが、期限が迫ってきたので今後 5 年間で使っていく。</li></ul>

○道路について

(市民からの要望・質問)

町会内の袋小路（小山内さん宅付近）を本道へつなげてほしい。

(市民からの意見)

その通りは、設計までいっているので何年もせずできるだろう。

(市の回答)

- ・尾崎町会の袋小路解消だが、松野地区は去年解消した。小山内さんの所も要望がきており、来年度工事する。中嶋さん宅の通りを三浦さん宅の通りへつなげることは、距離が長いので検討が必要となる。

○側溝について

(市民からの要望・質問)

町会内の本道（バスの路線）だが、側溝が築 40 年でボロボロである。蓋をかけ、道路を広くしてほしい。

(市の回答)

- ・町会要望としてあげてほしい。67 町会から 92 件の要望が出されているので場所を確認し、優先順位をつける。尾崎町会からは旧白岩線のオーバーレイの要望もでている。

○旧白岩線について

(市民からの要望・質問)

旧白岩線には横断的に水道管等のくぼみがある。トラックにりんごを積んで走行するとバウンドする。何度も工事した場所なので、通常のオーバーレイは無理だと思う。上の舗装を削りオーバーレイしなければ、舌を噛むような衝撃が走る部分が出るだろう。順を追って対応とのことだが、部分的に穴埋め補修でも対応してもらいたい。

(市の回答)

- ・現場確認し、根本的対処が必要であれば時間はかかると思うが、土木課と協議する。

○プレミアム商品券について

(市民からの要望・質問)

先日、新聞にプレミアム商品券のことが載った。内容について知りたい。

(市の回答)

- ・国のまち・ひと・しごと創生の交付金事業となる。総発行額 2 億 4,000 万円、約 20% のプレミアム付きとしている。1 万円で 1 万 2 千円分の商品券が買える。このほか、福祉商品券交換事業や福祉灯油、お出かけ買い物支援事業等組み合わせて事業を行っている。
- ・国の地方に対する経済対策であり、国から各市町村に交付金がくる。地方の消費を喚起するためのものなので、平川市でも 2 月 10 日にプレミアム商品券発行を決定した。

- ・プレミアム商品券は、1,000円券12枚を1万円で販売し、一人の限度額が20万円までである。
- ・地域住民生活等緊急支援交付金として国から約1億4,000万円（消費喚起型8,900万円、地方創生先行型5,200万円）がくるので、3月議会に補正予算として計上する。
- ・プレミアム商品券とセットで考えたものとして、お出かけ買い物支援事業がある。7月1日～12月31日に期間を限定し、全市民対象に循環バスを無料にする。また、低所得者世帯の中の障がい者、高齢者、ひとり親、多子世帯にガソリン購入、弘南鉄道や市内タクシーで使えるクーポン1万円相当を交付する。平賀、尾上地域にはプレミアム商品券が使える店があるが、東部地区や碓ヶ関地域はプレミアム商品券が使える店が遠いので発案した。
- ・福祉灯油の対象世帯は、低所得者、障がい者、高齢者、ひとり親、多子世帯（子どもが3人以上）等で2,400世帯を予定している。申請に基づき1,000円の灯油券10枚を配布する。現在受付中である。予算については専決処分している。
- ・福祉商品券は、5,000円で6,000円分の商品券がくる。対象世帯は福祉灯油と同じであり、予算は1,500万円程である。

○職員による庁舎清掃について

（市民からの要望・質問）

3回程庁舎清掃の時間に来庁した。16時から当番制で清掃しているようだが、追い出されている気分になり嫌な思いをした。16時からの1時間を清掃にあてているのか。

お客様が来た時、普通の家では掃除をしない。職員の相当数が自分の仕事を割いて清掃しているのであれば、その時間は無駄ではないか。その時間があれば仕事をすればいいし、掃除する余力があるのか。庁舎清掃委託分を少なくするためなのはわかるが、時間をずらす等検討の余地があると思う。

（市の回答）

- ・清掃業者にも委託しているが、経費節減のため16時から約10～15分程度、事務室の床は職員が掃除している。また、机の拭き掃除は勤務時間前や終了後に行っている。不快な思いをされたと思うが、業務中で手が離せなければ掃除せず業務にあたっている。
- ・以前は公園の草刈りや植栽管理も職員が行っていたが、職員数も減っており、現在はシルバー人材センターに委託している。
- ・市民にご迷惑をかけないようにしている。ご理解願いたい。
- ・市民が不快な思いをするならば、そのようなことがないようにしたい。全国的に経費節減のため職員が庁舎清掃や植栽管理等を行った。国の行財政改革で職員数を減らされているので余力はない。災害復旧で定時に帰れず、残業の連続だった課もある。自分たちでできることを自分たちでやろうと掃除をしているが、市民に不快感を与えるのであれば検討したい。
- ・接遇マニュアルを作り、就任時や年度初めの挨拶で職員に対して①市民本位で業務にあたること ②現場主義となること ③情報を共有し、平川市の課題とすること④市民、

職員との対話をすすめること ⑤新しいことに挑戦することを話した。今後もそのような話をし、市民の皆さんの声も聞きながら行政運営したい。

○福祉灯油について

(市民からの要望・質問)

福祉灯油の手紙が発送された世帯は、手続きすればすべてもらえるのか。

(市の回答)

・手紙はかなり細かく洗い出しをして発送したが、非課税世帯が条件なので、その確認が必要である。

○介護認定について

(市民からの要望・質問)

介護認定が非常に厳しいと感じている。母の介護度が去年まで2だったが、再認定では1になった。風呂に一人で入れられないのに介護度が軽くなり施設利用ができなくなった。市役所でその話をしたら、「皆さんそうおっしゃる」と言っていた。

(市の回答)

・調査員が伺い、状況を聞きとり、調査した結果を広域連合へ送る。その後、医師が適正かを判断する。問題は介護を受ける方の体調に波があることである。たまたま調査に伺った日にすこぶる元気が良ければ、介護度が軽くなることも考えられる。再認定を希望される方もいるが、認定にはチェックするポイントがある。ご理解願いたい。

(市民からの要望・質問)

いくら年をとってもプライドがあるのか、普段何もできなくても、調査員が来れば何でもやろうとする。しかし、調査員が帰るとまた元に戻る。

(市の回答)

・再認定は業者に任せている。業者によりやり方にばらつきがある。介護給付費が伸びているので、国から適正化を求められており、適正化事業を行っている。その中の一つに認定やケアプランの適正化がある。国の基準に従い再認定するようチェックしている影響もある。

・国では施設に入れるのは介護度3以上にしようとする動きがある。平川市は認定率が高いが、実際に介護を受けている人は少ない。今後、高齢化社会になり、介護保険料がだんだん上がる。第6次介護保険計画に入るが、介護保険料を6,480円に上げなければ間に合わない。介護が必要な人が増えるのでやむを得ないが、介護保険料が上がることで払えない方もでるので、非常に悩ましい。

・介護度の認定がケアマネージャーにより異なるので、統一するようチェックしている。調査員が伺った時には元気で、帰ると元になる状態を判定するのはむずかしいので、再認定を受ける等してほしい。

○市の発展について

(市民からの要望・質問)

今後、市が発展するために何をすすめていこうとしているのか。力を入れることやこれだけは他市町村には負けないという物はあるか。

(市の回答)

- ・ 1つに限定してはいない。まずは人口減少対策が必要なので、産業基盤や子育て環境等の整備が必要だと思っている。行政だけではなく市民の皆さんが自分たちで地域を考えていく市を作るため、コミュニティ育成事業奨励金を見直した。地域づくりに大いに活用してほしい。
- ・ 将来、人口減少し町会単位のコミュニティが難しくなれば、もっと大きな単位のコミュニティを作らなければならず地域自治組織が必要になるが、平川市は町会がしっかりしているので、今のところは現状のままでいいと思っている。
- ・ 次に広域連携が課題である。これからの時代は病院、消防、ゴミ焼却、下水道等広域で行えるものは広域で行うようにしたい。
- ・ 健康寿命が県で一番の平川市としたい。来年度から市民生活部を2つに分け、市民生活部と健康福祉部にする。
- ・ 平川市の寿命が低いのは、自殺が多いからである。健康推進課でも様々な対応をしているが、若くして亡くなる方を減らしたいので食育や教育と連携してすすめていきたい。
- ・ 7月に健康都市宣言をする予定である。市民の健康づくりに力をいれていきたい。

○ふるさと納税について

(市民からの要望・質問)

九州でふるさと納税の件数が低い自治体が、特典として宝くじをつけたら件数が伸びた。平川市でもふるさと納税をやっているが、今の特産品には魅力がない。例えば、しいたけの原木をつける等付加価値やアイデアをプラスすればどうか。

(市の回答)

- ・ 件数は年々減っていた。今までは物産協会から市の特産品をお礼として送っていたが、りんご等の農産物を送れないか検討した。今年は25件と増えたが爆発的に伸びてはいない。
- ・ 来年度から控除の限度額が2割になる。魅力ある付加価値をつけた自治体に寄附が集まる傾向は、今後も強くなるだろう。北海道士幌町は100万円以上の寄附者には気球に乗れる等の特典をだしている。全国的には牛肉や蟹に人気が集まっている。
- ・ 平成26年度からりんごを農協から出しており、現在も特産品を提供してくれる事業者を募集している。
- ・ ふるさとを思う気持ちからの寄附にお返しすることも大事なことで、今後も中身を充実させたい。市で採れた物にこだわりがちだが、別な観点から考える必要もある。

○新屋町会のお見合いパーティーについて

(市民からの要望・質問)

新屋町会のお見合いパーティーは町会独自のものか、行政は関わっているか。市長の出会いの場を作ることに対する考えは。

(市の回答)

- ・新屋町会独自である。昨年は商工会が電車 de 合コンを行った。今年はまち・ひと・しごとの地方創生の中で 100 万円の予算で出会いの場を作ろうとしている。ただ、出会いの場を設けてもなかなか人が集まらない。市単独ではなく広域的に連携をとることも考えたい。
- ・子育て支援も大事だが、まずは出会って結婚することが第一なので、皆さんからいいアイデアはないかお聞きしながらすすめたい。

○まちづくり懇談会について

(市民からの要望・質問)

まちづくり懇談会について、いろんな町会から出された意見をどう処理しているのか。結果について知る由がない。

(市の回答)

- ・懇談会の結果については市ホームページに載せており、結構見られているようだ。そのほか、窓口にも会議録を設置している。
- ・市民の安全安心に関わることには、すぐ対応している。持ち帰り検討するとしたことについては、解決できることできないことがあるが、後日、町会長や個人に対して連絡している。広報ひらかわにも少しだが載っているのので、ご確認いただきたい。

○交差点の除排雪について

(市民からの要望・質問)

交差点で一時停止した際、両側に雪が高く積もっており見通しが悪い。交差点の両側だけでも除排雪し、低くしてほしい。尾崎多目的研修集会所からバイパスへ出る通りは、全然見通しがきかない。

(市の回答)

- ・通学路の確保、交差点の隅切り、排雪の指示をしているが、通学路中心となるため全部はやれていない可能性がある。今後も市民の安全安心に関わることには対応していきたい。不自由をかけるかもしれないが、ご理解願いたい。